

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立御殿場特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立御殿場特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	193人

1. 使用状況

寄贈物品名	オミ・ビスタ（映像装置）
使用学年及び人数	ほぼ全ての生徒が1回以上は使用
使用頻度	週2～3回
使用状況	毎週2～3回程度の頻度で機器の貸し出しが行われ授業で使われている。不具合等は全く無く活用できている。知肢併設校だが、知的のクラスだけでなく、肢体不自由のクラスでも活用されている。机上に投影する使用法、床に投影する方法、それぞれのクラスの目的に応じて使用されている。
物品の使用による変化や効果	物事に興味関心をもつことが少し苦手な児童・生徒も、目の前に投影された映像をよく見る姿がみられた。自分が投影された映像に触れることで、映像が動くことが不思議なようで、机上の映像に手を伸ばして活動したり、床に映し出された映像を踏んでみたりする主体的な姿を引き出すことができている。暗室で機器を使用すると、更に映像に注目しやすいようで夢中になって活動する姿が多くみられた。
今後の活用の見通しや課題	非常に高価な物品なので鍵のかかる部屋に保管をし貸出簿を使って貸出すようにしている。様々な学部学年から予約が入っている。特に小学部では低学年のレクリエーション活動や、クラブ活動等で帯で使用しているようである。様々なアプリケーションが入っており、児童・生徒の興味関心に応じて使用することができる。
その他希望や所感など	さらに面白いアプリケーションの開発や、感度の向上。BGMや効果音の追加等があると、より多くの指導効果が期待できると思われる。

2. 活用の様子



上の写真は児童・生徒に人気のぐちゃぐちゃトマトです。縦横無尽に動く、トマトを追いかけてタッチすると、“ぐしゃっ”と面白い音がして潰れます。全部潰れると、ピザが完成します。夢中で取り組んでいます。

下の写真は、サッカーを模したゴールゲームです。ボールにタッチすると、ボールが動きます。

様々なタイプのアプリで楽しむ姿がみられています。